

## 第2回京都首都機能バックアップ方策検討委員会 結果概要

- 1 日時 平成24年5月7日(月) 18:30~20:00
- 2 場所 平安ホテル「朱雀」
- 3 出席委員
- 浅岡 美恵 NPO 法人気候ネットワーク代表・弁護士
- 尾池 和夫 (財)国際高等研究所所長・前京都大学総長(座長)
- 上子 秋生 立命館大学政策科学部教授
- 小長谷 一之 大阪市立大学大学院創造都市研究科教授
- 白幡 洋三郎 国際日本文化研究センター教授
- 土岐 憲三 立命館大学グローバル・イノベーション研究機構教授(副座長)
- 中川 大 京都大学大学院工学研究科教授
- (欠席)
- 橋爪 紳也 大阪府立大学21世紀科学研究機構教授
- 藤井 聡 京都大学大学院工学研究科教授

## 3 議事要旨

## (まとめ)

- 既存施設については、①収蔵スペースとしてではなく、「機能」として活用できるものは活用し、②施設によっては今ある機能を捨てて、何らかのバックアップ機能を受け入れ、③上記以外は新たなものを整備する、という考え方で整理する。
- バックアップを担う都市は、有事の際本部員が1時間以内に移動できるよう、リニア新幹線の駅前に作るべき。既存の新幹線や高速道路は海岸沿いにあり、分断されて使えない。また、発展可能性がある都市でなければならない。
- 国家緊急事態管理庁のようなものはどこかに必要で、引き受ける能力が京都にはある、という議論をすべき。
- 京都は全国的に見ても交通の要所であり、各地からの結節点。バックアップを担う都市は、有事の際に首相がすぐ駆けつけられる等の立地にならない。
- 昨今の交通基盤整備は需要と採算に偏った議論がされており、政策的には非常に貧困。リニアにしても実質的に民間企業のプロジェクト扱いとなっているが、国家全体で、バックアップ機能も含め国土のあり方として議論すべき。

### (各委員の主な意見)

- ・ いずれ起きる東海地震では、「首都圏は残っているが東西が分断されてしまう」という事態が起こりうる。本委員会の議論の対象ではないかもしれないが、そういう視点からバックアップのあり方を検討する必要がある。関西広域連合等で議論すべきではないか。
- ・ 既存施設の活用を前提とあるが、机上の空論ではないか。国会図書館関西館、博物館等とあるが、キャパシティがあるわけがない。「同類の施設があるから新たなスペースを造りやすい」ということは言えるかもしれないが、ほとんど新たな整備がいるのではないか。
- ・ 非常時には既存施設の通常機能をストップさせ、バックアップのために活用するというやり方はあり得る。
- ・ 文化庁に関しては、動かさない文化財が京都、奈良、大阪に集中しており、そこに文化庁が立地していないのはおかしいと言える。
- ・ 国家緊急事態管理庁のようなものはどこかに必要。引き受ける能力が京都にはある、という議論をすべき。
- ・ 京都は全国的に見ても交通の要所であり、各地からの結節点。バックアップを担う都市は、有事の際に首相がすぐ駆けつけられなければならないし、天皇陛下に国事行為を執り行っていただく必要もある。国家の中枢を担う機能についてはワンノブゼムではない重要な論点。
- ・ 危機管理の点から、迎賓館を首相官邸として活用するという案は、省庁が近くにない限り成り立たない。
- ・ バックアップを担う都市は、平時はバックアップそのものを研究すべき。「新エネルギー」「食・農」「GPS 観測点や人工衛星などのデータを活用した地震・防災の研究」「(GIS 活用により、建築物や遺跡などを再現可能にする精密なデータ化等も含めた) 文化アーカイブ・遠隔 IT」などを研究する必要がある。本物の文化財等を絶対安全な場所に保存する「平成の正倉院」と併せて全国の文化財・建築のバックアップになる。
- ・ 昨今の交通基盤整備は需要と採算に偏った議論がされており、政策的には非常に貧困。特に鉄道にその傾向がある。しっかりした国土を作るにはどうすれば良いか、という議論ができていない。
- ・ リニアにしても実質的に民間企業のプロジェクト扱いで、政策的に全く貧困。国家全体で、バックアップ機能も含め国土のあり方として議論すべき。東京一名古屋間が完成してから、そこから西は 18 年間止まるということでもいいのかという議論は必要。

### <議事の流れ>

#### 【審議事項 1】本委員会におけるバックアップ方策検討の視点等について

##### (事務局)

- ・ 資料に沿って説明

##### (土岐委員)

- ・ この委員会での議論は、関東方面に直下型地震が起きることを想定しているのか。

(事務局)

- ・ 然り。

(土岐委員)

- ・ いずれ起きる東海地震では、「首都圏は残っているが東西が分断されてしまう」という事態が起こりうる。本委員会の議論の対象ではないかもしれないが、そういう視点からバックアップのあり方を検討する必要がある。関西広域連合等で議論すべきではないか。

(尾池座長)

- ・ 重要な視点。事務局はメッセージとして伝えていただきたい。

## 【審議事項2】既存施設の活用方策について

(小長谷委員)

- ・ 学研地区にある「私のしごと館」をバックアップという視点から有効活用できないか。

(事務局)

- ・ 関西イノベーション国際戦略総合特区において、オープンイノベーション拠点として再活用を検討している。ただ、大きな施設なのでバックアップ機能にも活用できる可能性はあると思われる。

(土岐委員)

- ・ 既存施設の活用を前提とするとあるが、机上の空論ではないか。国会図書館関西館、博物館等とあるが、キャパシティがあるわけがない。「同類の施設があるから新たなスペースを造りやすい」ということは言えるかもしれないが。ほとんど新たな整備がいないではないか。

(事務局)

- ・ 施設ではなく、機能に着目している。博物館であればアーカイブの作成など、施設設備の拡張を要さないバックアップのあり方を想定している。

(土岐委員)

- ・ 大学に関しては、キャパシティの問題から学生や教員を引き受けるなどまず不可能。たとえばゴルフ場を活用するとかしないと無理。

(事務局)

- ・ おおよそ30日～45日程度の短期的なバックアップを想定しており、学生等が大挙して避難してくるという事態は考えなくても良いのではないか。大学に関しては、研究データのバックアップを想定している。

(土岐委員)

- ・ それならば、短期的なもの、長期的なものとの整理が必要。

(尾池座長)

- ・ 全部のバックアップではなく、部分的に、引き受けられるところを引き受けるということだろう。

(上子委員)

- ・ 飛行機はエンジンが1つ止まっても大丈夫なように、最低2つあり、また、操縦桿は

余分に積んでいると聞いている。東京が駄目になっても同じエンジンがもう一つあれば日本は墜落しない、というふうにしないといけないのではないか。

- また、操縦桿のように、「これだけは多重で持っていた方が良い」というものをピックアップしてはどうか。

(小長谷委員)

- 人は避難できるが、文化財やデータは避難できない。避難できないものの平時からのバックアップが必要で、精緻なレプリカの作成やアーカイブ化はしておくべき。原発災害で除染に数年かかる、あるいは除染できないという事態も想定しないといけない。

(土岐委員)

- 文化財や文化遺産については、レプリカでは意味がない。たとえば世界遺産登録で必ず問題になるのはオーセンティシティ。本物でないと意味がない。アーカイブを作るのは大いに意味があると思うが。

(浅岡委員)

- 迎賓館等については、いざというときにはこういう使い方をする、といったようなことを準備しておくということだと思う。

(尾池座長)

- 非常時には既存施設の通常機能をストップさせ、バックアップのために活用するというやり方はあり得る。

### 【審議事項3】新たに整備すべきバックアップ機能（施設）について

(事務局)

- 資料により説明

(小長谷委員)

- バックアップは、想定外のものを想定すべき。バックアップを担う都市は、有事の際本部員が1時間以内に移動でき、災害発生後3週間に大量の避難民が移動する可能性にも対応できるリニア新幹線の駅前に作るべき。既存の新幹線や高速道路は海岸沿いにあり、分断されて使えない。
- バックアップは、拡張可能性がある都市でないと担えない。既成市街地では不可能。
- 文化財については、オリジナルを絶対安全な場所に収蔵する「平成の正倉院」のような場所が必要ではないか。現在ある場所が被災可能性が高いならば、そこにはレプリカを置けば良い。

(土岐委員)

- 結局、既存施設ではほとんど対応できない。首都圏と似たような施設があるというだけで、物理的に収蔵スペースはない。ほとんど新たなものを整備せざるを得ないという視点で見直す必要があるのでは。

(座長)

- ①収蔵スペースとしてではなく、「機能」として活用できるものは活用する。
- ②施設によっては、今ある機能を捨てて、何らかのバックアップ機能を受け入れる。

- ・ ③それ以外は、新たなものを整備する。
- ・ 以上のような考え方で良いのではないか。

**(小長谷委員)**

- ・ 寄付された田辺の土地の活用法策はどうなっているのか。

**(事務局)**

- ・ 寄付については現在手続き中。現状は山林であり、活用方策はいろいろな可能性が考えられるので、いろいろご提案いただきたい。

**(白幡委員)**

- ・ このご時世、新しい施設の整備はなかなか難しいので、既存施設を十分活用しているかは必ず問われる。
- ・ 国会図書館の機能としては国政の基礎情報提供がある。関西館は元々情報館として整備された経緯があり、そういった「機能のバックアップ」を担えるというのはメリットとして言えるかもしれない。
- ・ 国立博物館は、どこが満足でどこが不足なのかデータが欲しい。検証するうえで何か新しい指標があるのではないか。
- ・ 文化庁に関しては、動かさない文化財が京都、奈良、大阪に集中しており、そこに文化庁が立地していないのはおかしいと言える。

**(中川委員)**

- ・ 国家緊急事態管理庁のようなものはどこかに必要。引き受ける能力が京都にはある、という議論をすべき。
- ・ 京都は全国的に見ても交通の要所であり、各地からの結節点。バックアップを担う都市は、有事の際に首相がすぐ駆けつけられなければならないし、天皇陛下に国事行為を執り行っていただく必要もある。国家の中枢を担う機能についてはワンノブゼムではない重要な論点。

**(尾池座長)**

- ・ ところで、皇室の問題は本委員会で取り上げるのか。

**(事務局)**

- ・ 京都の未来を考える懇話会の第 1 次提案で京都にも皇族の方にお住まいいただくことを提案しており、詳しくはそちらで議論を深めていく必要があると考えている。本委員会では皇室関係の専門の方もおられないので、御所などの現に有する機能の確認や、現状の問題提起に留めたい。

**(浅岡委員)**

- ・ 危機管理の点から、迎賓館を首相官邸として活用するという案は、省庁が近くにない限り成り立たない。

**(土岐委員)**

- ・ 資料に日本版 FEMA とあるが、内容を見れば FEMA ではない。今後の資料としては再考願いたい。

- ・ データセンターの書きぶりも誤解を招く。国家が既に持っていないはずはなく、既にあるが、引受先になり得る、ということだろう。

(小長谷委員)

- ・ 首都圏でも各省庁が個別に危機管理のあり方を検討しており、統合されていないのが問題。
- ・ 土岐委員ご指摘のとおり、データセンターは既にある。大学等で公にしていない研究途上のものを緊急にバックアップすることなどが考えられるのではないか。
- ・ バックアップを担う都市は、平時はバックアップそのものを研究すべき。「新エネルギー」「食・農」「GPS 観測点や人工衛星などのデータを活用した地震・防災の研究」「(GIS 活用により、建築物や遺跡などを再現可能にする精密なデータ化等も含めた)文化アーカイブ・遠隔 IT」などを研究する必要がある。文化アーカイブについては前述の「平成の正倉院」と併せると、東京のみならず全国の文化財・建築のバックアップになる。

(尾池座長)

- ・ FEMA という表現は誤解を生むので使わないこととしたい。
- ・ 交通基盤に関して言えば、リニアが取りざたされている。名古屋ー大阪間をどうするかはまだ決まっていないが、交通が伴わないとバックアップなどできない。これに関連して何かご意見は。

(浅岡委員)

- ・ バックアップを担う地にリニアの駅が必要ということについて、具体的なイメージが必要。単に文化・学術のバックアップというだけではよく分からない。

(中川委員)

- ・ 昨今の交通基盤整備は需要と採算に偏った議論がされており、政策的には非常に貧困。特に鉄道にその傾向がある。しっかりした国土を作るにはどうすれば良いか、という議論ができていない。
- ・ リニアにしても実質的に民間企業のプロジェクト扱いであり、政策的に全く貧困。国家全体で、バックアップ機能も含め国土のあり方としても議論すべき。東京ー名古屋間が完成してから、そこから西は 18 年間止まるということでもいいのかという議論は必要。

**【連絡事項】**

(尾池座長)

- ・ 今後のスケジュールはどうか。

(事務局)

- ・ これまでの議論を踏まえ、「中間まとめ (案)」を作成し、次回委員会で議論いただきたい。

(尾池座長)

- ・ 事務局は何とか案をまとめると言っている。各委員の皆さんに個別に意見をいただくこともあろうかと思うので、ご協力をお願いしたい。